本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市東区平野町5－1	☎大阪06(202)2221
南支社	〒557	大阪市西成区玉出東2－9－41	☎大阪06(652)0001
北支社	〒532	大阪市淀川区十三本町3－6－35	☎大阪06(301)1251
堺支社	〒590	堺市住吉橋町2－2－19	☎堺0722(38)1131
北摂支社	〒569	高槻市藤の里町39－6	☎高槻0726(71)0361
阪神支社	〒662	西宮市和上町4－11	☎西宮0798(26)3101
東部支社	〒578	東大阪市稲葉2－3－17	☎河内0729(62)1131
京阪支社	〒573	枚方市西田宮町16－17	☎枚方0720(41)1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区相生町5－13－10	☎神戸078(576)5231
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸御池梅屋町358	☎京都075(231)8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北2－4－1	☎奈良0742(44)1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町1－1－1	☎和歌山0734(31)2481
姫路支社	〒670	姫路市神屋町4－8	☎姫路0792(85)2221
東播支社	〒675	加古川市加古川町粟津29－1	☎加古川0794(21)1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町6－57	☎豊岡07962(3)2221
湖南支社	〒525	草津市追分町字荒堀680－1	☎草津0775(62)5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町12－11	☎彦根0749(22)3131
(長浜営業所)	〒526	長浜市南呉服町3－4	☎長浜0749(62)7171

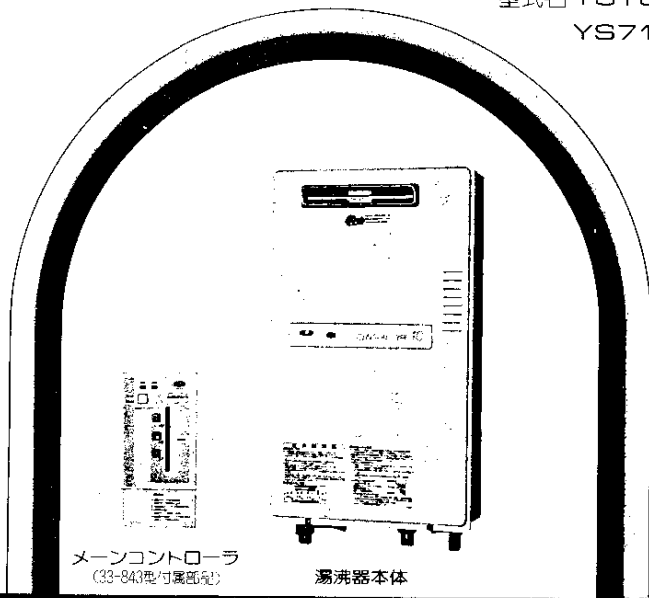
その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

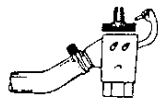
ガス瞬間湯沸器 取扱説明書 33-843・807型

保証書付

型式名 YS1015R

YS715R

メーンコントローラ
(33-843型付属部品)

湯沸器本体

ガス器具をご使用になるときのご注意

ガス器具を
ご使用になった
あとは必ず
ガス元栓も
閉める習慣を

ガス器具を
ご使用中は
熱くなります
手をふれないで
ください！

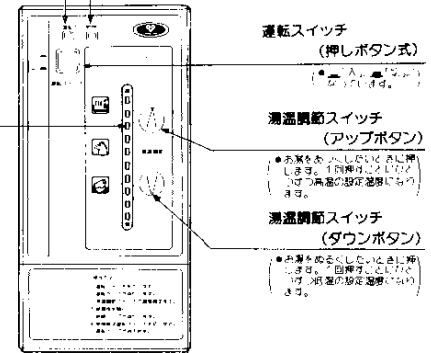
ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

● ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく操作してください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にお問い合せください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガス湯沸器をお求めいただきありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いの上、別添の保証書とともにいつでもごらんいただけるところに大切に保存しておいてください。

もくじ

この取扱説明書は10号・リモコンタイプの33-843型と 6.5号・リモコンレスタイプの33-807型とを併記しています。
お買いあげの湯沸器がどちらのタイプか十分確認のうえ、ご使用ください。

特に注意していただきたいこと

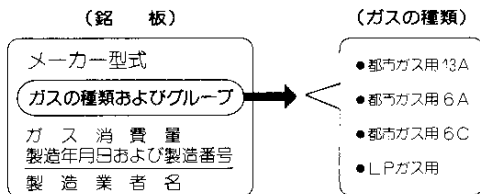
正しく安全にお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

❶湯沸器（銘板）に表示してあるガスの種類およびガスグループ以外では使用しないでください。

❷銘板は湯沸器正面右下に貼っています。

❸ガスの種類には都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。

（銘　板）　（ガスの種類）

使用電源についてのご注意

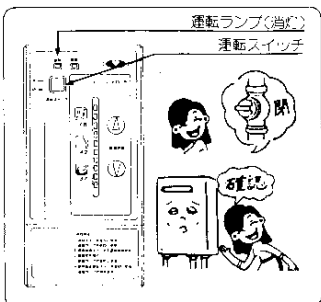
●電源の電圧と周波数をご確認ください。

この湯沸器はAC100V、60ヘルツ用です。お宅の電源の電圧と周波数が一致しているかご確認ください。

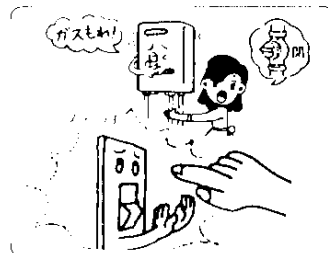
使用上のご注意

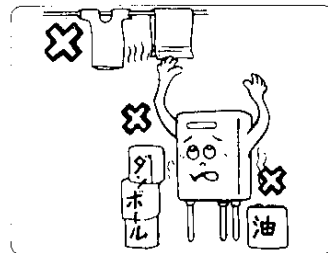
1 ガス漏れ予防

❶長期間使用しないときは、必ずガス元栓を閉じてください。
メーンコントローラをお使いの場合は運転スイッチも「切」にしてください。

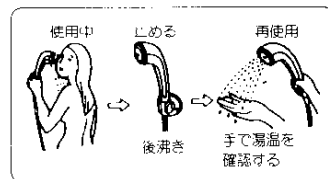
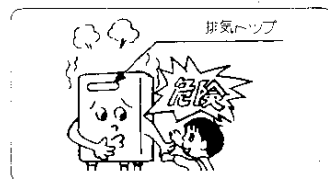
❷使用中にガスのにおいや、不快なにおいがしないかときどき確かめてください。

2 ガス事故防止

❶ガス漏れに気付いたときは、ただちに使用を中止して、ガスせんを閉じ、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に連絡ください。
（絶対に使用しないでください。）

❷ガスが漏れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれたり（スイッチの「入」「切」や電源プラグの抜き差しなど）しないでください。

3 火災予防

●湯沸器の上やそばに燃えやすいもの（洗たく物、ダンボール、揮発油など）を絶対においたり、近づけたりしないでください。

4 やけどのご注意

❶使用中または使用後しばらくは、湯沸器本体の排気トップは熱くなります。手を触れたりしないでください。

❷シャワーをご使用直後、再びお使いになるときは、いきなり体や頭にかけず、手で湯温を確かめながらお使いください。（一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。）

特に注意していただきたいこと③

5 飲料用や調理用にお使いのとき

- 湯沸器を長時間使用しなかったときは、すぐに飲料用や調理用にご使用にならないで、少し湯(水)を流してからご使用ください。

6 用途について

- 給湯およびシャワー以外の用途には、使用しないでください。

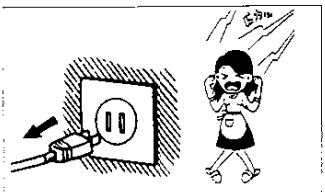
7 市販の補助具について

- この湯沸器用の付属部品および別売部品以外は使用しないでください。

8 異常時の処置

- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、あわてず給湯栓を閉じ、ガス元栓を閉じて十分な点検をしてください。
  メーンコントローラをお使いの場合は、運転スイッチも「切」にしてください。(詳しくは、14〜17ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項をごらんください。)

落雷のおそれのある時

❶雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがありますので、雷が発生したときは、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源プラグ・コンセントを用いず、直接配線工事されている場合は、その回路の電源ブレーカのスイッチを切って下さい。

❷雷が遠ざかったことを確かめてから、電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。

凍結についてのご注意

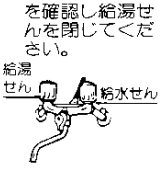
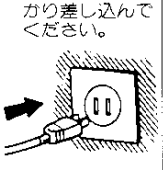
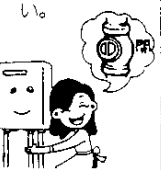
❶この湯沸器には、冬期の凍結による破損予防のために「凍結予防ヒータ」が内蔵されています。凍結予防ヒータが作動する可能性のある期間中は、緊急の場合以外には、電源プラグを抜かないでください。

❷厳寒期には湯沸器内の水が凍結し、破損事故が起こることがありますので、湯沸器内の水が凍るおそれのあるときは凍結を予防する処置を必ず行ってください。(詳しくは10〜12ページの「冬期の凍結による破損予防について」の項にしたがって処置をしてください。)

日常の点検・手入れ

❶日常の点検・手入れをしてください。(詳しくは13ページの「日常の点検・手入れ」の項をごらんください。)

特に注意していただきたいこと④

❷湯沸器が故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このとき、ご自分で修理なさらずに、必ずお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

湯沸器の設置・工事

❶湯沸器の設置・工事は、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に依頼し、安全な位置に正しく設置してご使用ください。
(詳しくは「工事説明書」をごらんください。)

❷この湯沸器は屋外専用ですので屋内には絶対に設置しないでください。

使用手順

使用前の準備と確認

●湯沸器の操作をする前に次のことを行ってください。

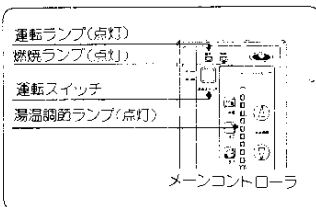
手　順　1	手　順　2	手　順　3	手　順　4
●給水元せんを全開にしてください。	●給湯せんを開いて水が出ることを確認し給湯せんを閉じてください。	●電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	●ガス元せんを全開にしてください。

〈ご注意〉 通電後、約５秒間は器具を操作しないでください。

使用方法 〈33-843型10号・リモコンタイプをお使いのとき〉

1 点火・出湯(お湯の出し方)

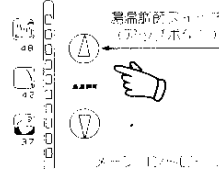
❶メーンコントローラの運転スイッチを押して「入」にしてください。(メーンコントローラの運転ランプ、および湯温調節ランプが点灯します。)

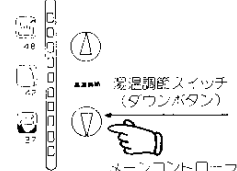
❷給湯栓を開きますと、自動的にバーナに着火し、お湯がでます。(この際、メーンコントローラの燃焼ランプが点灯し、着火が確認できます。)

2 湯温調節のしかた

❶ メーンコントローラの湯温調節スイッチ(アップボタンまたはダウンボタン)を下記の要領で操作し、10段階の中からお好みの温度にセットしてください。(低約35℃～高約80℃の間で選ぶことができます。)

❷ 冬期水温の低い時など、湯温調節ランプを「高」の位置に操作されても熱い湯が出ないことがあります。そのような時には給湯栓を少し絞ってお使い下さい。

使用手順 ②

(お湯をあつくしたいとき)

●アップボタンを１回押すごとにひとつずつ高温の温度設定になります。

(お湯をぬるくしたいとき)

●ダウンボタンを１回押すごとにひとつずつ低温の温度設定になります。

3 消火・出湯停止(お湯の止め方)

❶給湯栓を閉じますと、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。(この際、メーンコントローラの燃焼ランプが消灯し、消火が確認されます。)

❷ご使用後はメーンコントローラの運転スイッチを押して「切」にしてください。(すべてのランプが消灯します。)

❸お出かけや長期間器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じてください。

〈ご注意〉

❶使いはじめは、給湯配管内にたまった水が流れ出すまで、お湯は出てきません。(約30秒待ってもお湯が出てこないときは、給湯栓をいったん閉じて、メーンコントローラの運転スイッチを「切」にし、再び運転スイッチを「入」にして、給湯栓を開いてください。)

❷高温設定したときには水の中の空気が分離して気泡となり、お湯が白くなることがありますが空気ですので何ら心配はありません。

❸水圧が下がった時など能力が十分出ないことがあります。そのような時には、湯温調節スイッチを押して湯温を高温側に設定し湯水混合栓で水と混ぜて適温にしてお使いください。

❹湯沸器に不具合が出じた時には、燃焼ランプが点滅し、点滅状態により不具合の原因を知らせます。(詳しくは17ページの「ＯＫモニターについて」の項をごらんください。)

❺停電時や電源プラグを抜かれた場合、再通電しますとコントローラの設定温度は約42℃になりますので、再度お好みの温度に調節しなおしてください。

使用方法 《33-807型6.5号・リモコンレスタイプをお使いのとき》

1 点火・出湯（お湯の出し方）

●給湯栓を開きますと、自動的にバーナーに着火し、約45℃のお湯が出ます。

2 湯温調節のしかた

●湯水混合栓で水と混ぜ適温にしてお使い下さい。

3 消火・出湯停止（お湯の止め方）

❶給湯栓を閉じますと、お湯が止まり、自動的にバーナも消火します。

❷お出かけや長期間器具を使用しない場合は、ガス元栓を閉じて下さい。

《ご注意》

❶使いはじめは給湯配管内の水が流れるまでお湯は出ません。
約30秒待ってもお湯が出てこないときは、一度給湯栓を閉じて約5秒間待ち、ふたたび給湯栓を開いてください。

❷冬期水温の低いときなど、給湯栓を全開にしますと、熱いお湯が出ないことがあります。そのようなときには給湯栓を絞ってお使いください。

❸給湯栓を極端に絞りますと、バーナが消火し、水に変ることがあります。

断水時・停電時の処置

断水時の処置

❶断水のときは、給湯栓を閉じて電源プラグをコンセントから抜いてください。

❷再使用するときは、必ず給湯栓から水のでるのを確かめてから7～9ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

停電時の処置

❶使用中万一停電した場合は、給湯栓を閉じてください。

❷再通電したときは、7～9ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。

冬期の凍結による破損予防について

冬期には、寒冷地以外でも急な寒波のため湯沸器内の水が凍結し、湯沸器を破損することがあります。湯沸器が凍結し、破損すると高額な修理費用がかかりますので、次のような処置をして湯沸器の凍結による破損を予防してください。

凍結予防装置

●この湯沸器には、万一凍結予防処置を忘れたときや、急な冷え込みのときのために凍結予防ヒータを組み込んでいます。外気温が下がると自動的に湯沸器内を保温します。これは、凍結予防のためのもので、外気温度が極端に低くなるような場合は、効果がありませんので、11～12ページに記載の処置をしてください。

〈ご注意〉

●湯沸器内の水を抜くとき以外は、絶対に電源プラグを抜かないでください。
電源プラグを抜くと凍結予防ヒータが作動しません。

冬期の凍結による破損予防について ②

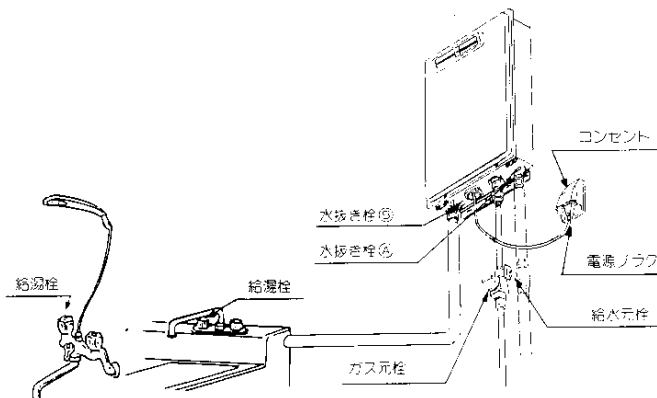
湯沸器内の水を抜く方法

〈入居前や長期不在の場合〉

● 給水配管、給湯配管の凍結予防はできませんが、凍結から湯沸器を守るには、最も良い方法です。

〈水抜きの手順〉

❶ガス元栓を閉じてください。
❷電源プラグをコンセントから抜いてください。
❸給水元栓を閉じてください。
❹すべての給湯栓を開いてください。
❺水抜き栓Ⓐ、水抜き栓Ⓑを左に回して外してください。

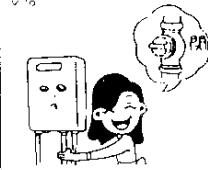
〈ご注意〉

❶給湯栓は、次にお使いのときまで開いたままにしておいてください。

❷再び、使用されるときは、水抜き栓Ⓐおよび水抜き栓Ⓑを閉じ、給水元栓を開いて、給湯栓から水が流れるのを確認してください。このとき水抜き栓Ⓐ水抜き栓Ⓑから水漏れがないかを確認してください。
(電源プラグをコンセントにしっかり差し込み、7～9ページの「使用手順」の項にしたがって操作してください。)

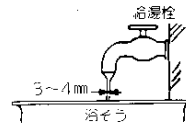
冬期の凍結による破損予防について ③

給湯栓から水を出し放しにする方法

● 湯沸器本体だけでなく、給水配管、給湯配管の凍結予防にもなります。

ガス元栓を閉じてください。

33-8/3型を使用されている場合はメーンコントローラの運転スイッチを「切」にしてください。

※電源プラグは抜かないでください。

給湯栓より少量の水を流してください。1分間に牛乳ビン1本(200cc)以上。(寒い日は多い目に。)

〈ご注意〉

● 給湯栓からの流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後に、もう一度流量を確認してください。(少なすぎると凍結予防にはなりません。)

凍結したときには

❶凍結したときには、湯沸器に不具合が生じる場合があります。凍結がとけたあと、水漏れや、作動に不具合がないことを、確認してご使用ください。
❷湯沸器や配管が破損すると、高額の修理費用がかかります。(有料)

長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、ガス元栓、給水元栓を閉じ必ず湯沸器内の水を抜いてください。(詳しくは11ページの「湯沸器内の水を抜く方法」の項にしたがってください。)

日常の点検・手入れ

❶湯沸器を安全に長くご使用いただくために日常の点検、手入れを必ず行ってください。
❷日常の点検・手入れの際には必ずガスの元栓を閉じ電源プラグをコンセントから抜いて、湯沸器が十分冷えてから行ってください。
❸前板などは、外さないでください。

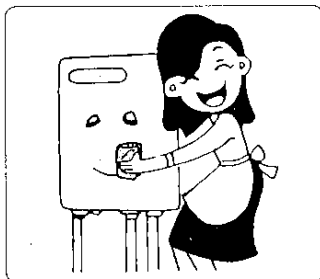
日常の点検

❶湯沸器の上や周囲に燃えやすいものを置いていませんか?
❷ガス配管部からガス漏れしていませんか?
❸給水、給湯配管から水漏れしていませんか?
❹排気トップ(排気口)や給気口をふさいでいませんか?
〔排気トップ(排気口)、給気口は2ページの「各部の名称」の項をごらんください。〕
❺湯沸器のご使用に支障がなくても、2〜3年に1回ぐらいバーナや各部の作動が"正常"かどうか定期的に点検をするのが、安全に長期間使用いただくための"ひけつ"です。点検のご依頼は、お買求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。

日常のお手入れ

❶前板・後板のそうじ

●湯沸器の前板・後板の汚れはやわらかい布、またはスポンジに台所用中性洗剤を付けてふき取ってください。(洗剤が残らないようご注意ください。)

〈ご注意〉
●金属たわし・みがき粉・シンナーやベンジンなどは使用しないでください。(湯沸器本体の色が変色したり、印刷表示物の文字が消えます。)

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不具合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

次のような場合は故障ではありません

❶最低作動水量について

この湯沸器は、湯沸器内の通水量が最低作動水量(2.5ℓ/分)以下になったときは点火しませんので、故障とお間違いのないように、ご注意ください。

❷同時給湯について

2箇所同時にお湯を使用するときに、給湯配管の方法、給湯栓の開きぐあいによって、それぞれの給湯栓のお湯の量が異なることがあります。特に湯沸器から遠い場所、高い位置の給湯栓では、お湯の出ない場合もあります。また、シャワーをご使用中に、他の給湯栓を同時使用しますと湯温や湯量が変動しますので、ご注意ください。

❸排気トップからの白い煙について

冬期(外気温が低いとき)には、排気ガス中の水分が水蒸気に変わるために排気トップから白い煙が出ることがあります。
これは、人のはく息が白くなるのと同じ現象ですので、何ら心配はありません。

❹メーンコントローラ(33-843型付属部品)の燃焼ランプ消灯について

メーンコントローラをご使用時、湯沸器使用中に燃焼ランプが消灯し、停止時に点灯する場合は、電源の極性が逆になっています。
その場合は、運転スイッチを「切」にし、電源プラグを一端抜き再度差し込んでから約5秒待って運転スイッチを「入」にしてください。

故障・異常の見分け方と処置方法 ②

故障または異常例 〈注意〉 メーンコントローラをお使いのときは、A又はBの△印の状態になると燃焼ランプが点滅をはじめます。

異常原因 ＼ 異常現象		A 着火しにくい 給湯栓を開いても着火しない	B 使用中に消火した・消火しやすい	C 高温の湯がでない	D 使用中湯温が極端に変動する	E 異常な音をたてて燃焼する	F 過圧逃し弁から常時水がでる	処置方法	参照ページ
ガス元栓の開きが不十分		△		○				ガス元栓を全開にする	7
配管内に空気が残っている		△						点火操作を繰り返す	7~9
給水元栓の開きが不十分		○	○		○			給水元栓を全開にする	7
水圧が適切でない	低い	○	○		○			点検・修理を依頼する	—
	高い						○		—
水フィルターにごみがつまっている		○	○		○			つまり除去または点検・修理を依頼する	—
給湯栓の開きが不十分		○	○		○			給湯栓を十分に開く	7
電源プラグの差し込み忘れ		○						電源プラグを差し込む	7
凍結している		○						解凍するまで使用を中止する	12
湯温調節が適切でない				○				「使用手順」参照	7
漏電安全装置作動		○	○					電源プラグを一度抜き再び差し込む	7
バーナの逆火						○		点検・修理を依頼する	—

原因や処置がわからないときは、ただちにお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。

（冬期には水抜き操作を行ってください。詳しくは11ページの「湯沸器内の水を抜く方法」の項にしたがってください。）

故障・異常の見分け方と処置方法 ③

安全装置の種類とその働き

❶立消え安全装置

万一使用中にバーナの炎が消えたときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

❷過熱防止装置

使用中湯沸器内の温度が異常に高くなったときは、この安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

❸空だき安全装置

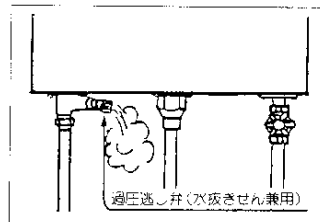
熱交換器が異常な温度上昇をしたときはこの安全装置が働いて自動的にガスを止める装置です。

❹過昇温安全装置

この安全装置が作動しても故障ではありません。使用の際に、湯量を極端に絞ったり、水圧が低いときに湯温が過度に上昇することがあるため、過昇温防止装置を設けてあります。湯温が約95℃以上になるとこの装置が働いて、自動的に消火します。

❺過圧防止安全装置

湯沸器の使用停止直後に熱交換器の余熱により、熱交換器内の圧力が高くなり過圧逃し弁が作動して水がポタポタ出ることがありますが、湯沸器の故障ではありません。

〈ご注意〉
- 空だき安全装置が作動する際には、湯沸器の損傷を防ぐため過圧防止安全装置（過圧逃し弁）が作動し高温の蒸気が噴出しますので、ご注意ください。

❻漏電安全装置（漏電しゃ断器）

この器具は、万一漏電した場合に漏電安全装置が働いて使用できなくなります。この場合、電源コードのプラグを一度抜き差ししてからご使用ください。再度同じ現象が起きたときは、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社へご連絡ください。

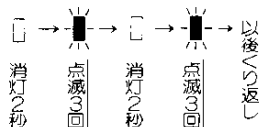
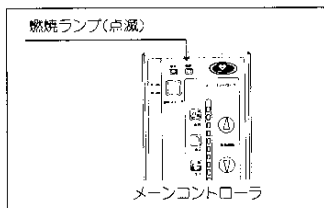
OKモニターについて

●メーンコントローラをお使いの場合、湯沸器に不具合が生じたとき、燃焼ランプの点滅によって、不具合の原因を知らせるOKモニター機能が付いています。

〈活用の仕方〉

❶燃焼ランプの点滅回数をチェックします。(点滅回数とは、消灯2秒間と次の消灯2秒間の間の連続した点滅の回数を指します。)

❷次に、下表からチェックした点滅回数と一致する内容をさがしてください。

(例)

このような点滅をくり返している場合、点滅数は3回なので、右表で見ると、No.3の「ハイリミットSW又は温度ヒューズ作動」が原因であることが判ります。

NO.	燃焼ランプの点滅周期	内容
1	点滅数1	バーナ不着火
2	点滅数2	バーナ失火
3	点滅数3	ハイリミットSW又は温度ヒューズ作動
4	点滅数5	給湯サーミスタ異常
5	点滅数6	送風機異常
6	点滅数7	湯温が異常高温
7	点滅数8	電装基板異常

仕様一覧表

項目 ＼ 種別		33-843型 33-807型			
		都市ガス6C	都市ガス13A	都市ガス6A	LPガス
最大ガス消費量(Kcal/n)	33-843型	19.500	19.500	19.500	1.58(kg/h)
	33-807型	12.500	12.500	12.500	1.00(kg/h)
設置方式		屋外設置			
外形寸法 (mm)		高さ570×幅330×奥行100			
重量(kg)		14			
接続	ガス	15A(PT1/2)			
	給水	15A(PT1/2)			
	給湯	15A(PT1/2)			
	電気	AC100V			
消費電力 (W)		50(凍結予防ヒータ64)			
点火方式		連続スパークダイレクト着火			
必要使用水圧 (kg/cm²)		0.8			
出湯量〔水温+25℃〕(ℓ/分)	33-843型	10			
(湯水混合水栓で混合した時)	33-807型	6.5			
最低作動水量(ℓ/分)		2.5 (0.2kg/cm²)			
安全装置		立消え安全装置 過熱防止装置 空だき安全装置 過昇温安全装置 過圧防止安全装置 凍結予防装置 漏電安全装置			

アフターサービス

サービスのお申し込み

❶14〜17ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

❷確認のうえ、それでも不具合がある場合、あるいはご不明な点がある場合ご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社へご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

① 品　名……ガス瞬間湯沸器

② 大阪ガス商品コード……湯沸器の正面右下に貼付してあります。

（例）

(N)33-843(U)
大阪ガス株式会社 07

③ 現　象……できるだけ詳しく

④ 道　順……できるだけ詳しく

転居される場合

● ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり都市ガスにはガスグループの区分があります。ガスの種類、ガスグループの区分が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類、ガスグループの区分を確認のうえ、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証について

● この湯沸器には保証書がついています。
● 保証書に記載のように、湯沸器の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
● 保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

補修用性能部品の最低保有期間について

❶無料修理期間経過後の修理については、お買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理します。

❷補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後７年です。

※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

寸 法 図

メモ

特　長

1．省スペースタイプ

薄型(厚さ100㎜)後面近接設置タイプで、省スペース設置ができます。

2．出湯温度はいつも一定

ガス比例制御の採用により、オールシーズン定温出湯ができます。

- 33-843型はメーンコントローラで35℃～80℃の湯温調節が可能です。
- 33-807型は45℃の恒温出湯タイプです。

3．省エネルギータイプ

給湯カランを開くだけで、お湯の出るダイレクト着火方式で、たね火のない省エネ設計です。